



第36回兵庫県理学療法学術大会大会長インタビュー

宝塚リハビリテーション病院 中谷知生

機は熟した

“地域の未来を支える
理学療法の挑戦と革新“

宝塚リハビリテーション病院 中谷知生



今年度、第36回兵庫県理学療法学術大会の中谷大会長に公募に至った経緯や今回の県学会の見所やテーマの背景、そして今後の兵庫県における学会の展望などその熱い思いを語って頂きました。

大会長公募の経緯と役割

なぜ今回の学会の大会長に公募しようと思ったのですか？

私は兵庫県士会の理事に就任する以前から、日本神経理学療法学会や日本支援工理学療法学会において理事や評議員を務め、学術事業の運営に関わってまいりました。これら専門性の高い学会では、ある程度テーマを絞り込むことで、コアな学術的情報の交換を目的とした事業運営が行われています。

一方で、学術的なコミュニケーションにおいては、より身近なコミュニティ、すなわち顔の見える関係性のなかで情報を共有することにも、大きな意義があると感じてきました。

兵庫県士会の理事として学術事業に関わるなかで、士会が非常に大きな影響力と実行力を有していることを実感しました。そして、その力を会員の皆様が実際に体感できる場こそが、士会主催の学術大会であると再認識した次第です。士会主催の学術大会には、「身近さ」「多様なテーマ」「地域の実情に即した内容」といった特長があります。こうした大会の運営を通じて、会員の皆様に「兵庫県士会の会員であることの価値とメリット」を直接感じていただきたい—そのような思いから、今回大会長へ応募いたしました。

思い出に残る学会はありますか？それは、どのような学会ですか？

もうずいぶん前になりますが、第26回兵庫県理学療法学術大会が赤穂市で開催されたことがありました（たしか…ですが）。私は宝塚の職場から、後輩と一緒に新快速の赤穂行きに乗って向かったのですが、「一体いつになったら赤穂に着くんか…」と途中で何度も思うほど、兵庫県の広さを改めて実感した大会でした。

同時に、「こんなにも広大なフィールドを抱えていることこそが、兵庫県士会の強さの源なのだな」と感じたのを覚えています。

これまでの大会運営と比べ、リーダーシップの取り方に変化はありましたか？

正直なところ、これまでの大会運営がどのような形で行われていたのか、私は詳しく存じ上げません。ただ、自分自身について言えば、「面白そうな企画をどんどん思いつく力」だけは、ちょっと自信があります笑 一方で、実務的な面ではやや不得手な部分もあり、準備委員長の前川先生には本当に多くの場面で助けていただいています。まさに“おんぶにだっこ”状態で、全面的に支えていただいています。

もし学術大会当日に前川先生をお見かけになったら、ぜひ一言、ねぎらいの言葉をかけてあげてください。まさにこの学術大会の“屋台骨”として、陰に日向に支えてくださっている存在です。

学会の見所とテーマの背景

今回のテーマ「機は熟した」にはどのような思いが込められていますか？

これは正直に申し上げると、学会準備のなかで“咄嗟に出てきた”キーワードなんです。第36回大会の企画にあたり、まずは一緒に走ってくれるキーマンたちをリクルートする必要がありました。そのときに思わず口をついて出た口説き文句が―「私が思い描いているこの学術大会をやり遂げるには、今、このタイミングで、このメンバーでなければならない。今なら、このアクロバティックな構想を現実にする。だからこそ、あなたの力がどうしても必要なんです。まさに“機は熟している”んです！」―という、我ながらなんとも情熱的な一言でした。言葉にして出てきた瞬間、「あ、このフレーズをそのまま大会テーマにしよう」と、直感的に決めました。こんなふうにテーマを決めるやり方が“アリ”なのか“ナシ”なのか…正直、私にもよくわかりません笑でも、自分の中では確かな手応えがありましたし、何よりこのテーマに背中を押されるようにして、とりあえずここまで走ってきた気がします。

但馬と神戸、2会場での開催という形式にはどんな狙いがありますか？

先ほども申し上げた通り、私の中で強く印象に残っているのが、赤穂で開催された学術大会です。あのときの長い移動距離を体感しながら、「兵庫って本当に広い」「その広さこそが県士会の懐の深さだ」と実感した記憶があります。近年は、オンラインで手軽に学術情報を得られる時代になりました。しかし、だからこそ私は、県士会主催の学術大会には“実際に現地へ赴き、対面で交流する”というプロセスにこそ大きな意味があると考えています。その土地へ足を運び、風土を肌で感じ、人と語らう―その経験を通じて、兵庫県の地理的な広がりや多様性を実感できるのは、リアル開催ならではの魅力です。そういった思いから、今回はどうしても「但馬での開催」にこだわりました。赤穂であれば、新快速に乗れば電車が連れて行ってくれます。でも、「では今度は兵庫を縦に移動してみよう」と考えたとき、自然と但馬開催というコンセプトにたどり着いたのです。とはいえ、但馬単独での開催には、会場のキャパシティなど物理的な制約もあります。そこで今回は、サテライト会場として神戸を併設するという形をとりました。兵庫県全域の会員が、より参加しやすく、より身近に学術大会を感じていただけるように一この「但馬×神戸の2会場同時開催」は、私なりに模索した“新しい学術大会のかたち”へのひとつの答えです。

注目の講演やプログラムはありますか？

今回の学術大会では、但馬会場では「地域での理学療法の可能性」、神戸会場では「新しい技術による理学療法の可能性」という2つのテーマを掲げ、それぞれに特色あるプログラムを用意しています。まず但馬会場では、千葉大学の近藤克則先生、井手一茂先生をお招きし、「街づくりを通じた健康へのアプローチ」をテーマに講演を行っていただきます。その中で、理学療法士が地域でどのように活躍できるのか、新しいフィールドでの可能性を具体的に探ります。私たちの専門性が“医療”を越えて広がっていく実感を持てる、まさに必聴の内容です。一方、神戸会場では、脳卒中や運動器といった臨床で日々直面する課題に対して、「新しい技術がどのように役立つのか」という視点から、講演とハンズオンセミナーを企画しています。講師陣には、現在兵庫県の臨床現場で最前線を走る先生方をお招きし、現場感あふれる実践的な知見を共有いただきます。さらに今回は、事前参加登録者限定の動画コンテンツもご用意しています。但馬・神戸どちらの会場に参加される方も、事前に配信される動画を通して、より深く学びを得ていただける仕組みとなっています。プログラム・講演内容については、もう正直、自信しかありません！詳細は今後、学術大会の公式ホームページやSNSで随時発信してまいりますので、ぜひチェックしてみてください。

学会案内の大会長の写真を拝見すると「着物」を着ておられますが、どうしてでしょうか？

実は私、理学療法士でありながら、落語家としても活動しております。普段は回復期病棟で臨床に従事していますが、地域の通いの場などでは、落語を通じて介護予防の情報を楽しく発信しています。今回の大会では、但馬会場で「地域での理学療法の可能性」をテーマに情報を共有する予定です。そうした場においては、やはり“自分らしいスタイル”で登壇したいという思いがありまして一つまり、和服が私の“正装”なんです。なので、大会案内の写真の着物姿は、ちょっとした“前フリ”でもありつつ、私の活動スタイルそのものを表した一枚、というわけです。



会場を二つに分け、オンラインで繋ぐという試みの準備で最も大変だったことは？

正直に申し上げますと、一番大変だったのは、やはり「運営コストがめちゃくちゃ膨れ上がる」という点に尽きます。リアル2会場+オンライン接続+オンデマンド配信…と、やりたいことを詰め込んだ結果、想像以上の規模になりまして、もう本当に、予算との闘いです。ですので皆さま、どうかぜひご参加ください！但馬会場でも、神戸会場でも、あるいはオンデマンド参加でもどの形でも大事な情報を確実に届けられるよう、準備は万全を期しています。繰り返しになりますが、そのぶん本当にコストがかかっております。いま、必死で頑張っています。はい。

兵庫県全域の理学療法士にとって、より参加しやすい大会にするための工夫とは？

学術大会を運営するうえで、「参加しやすさ」は当然ながら非常に重要な要素だと考えています。その意味では、多くの会員にとってアクセスの良い神戸で開催するのが、もっとも合理的でシンプルな選択肢かもしれません。けれど、私が理想とする“県土会の学会”は、そうした単純な利便性の追求とは少し違うところにあります。これは冒頭でも述べましたが、「それでもこの内容であれば、移動してでも参加したい」と思っただけのような、そんなプログラムを提供することこそが、本当の意味での“参加しやすさ”だと思っているんです。だからこそ今回は、但馬での開催にも挑戦しました。内容には、絶対の自信があります。みなさま、どうか“わざわざ”の価値を感じに来てください。繰り返しますが——内容には本気で自信があります。

これまでの大会と比べて、今回特に挑戦した点は何ですか？

さまざまな挑戦がありますが、やはり象徴的なのは「但馬をメイン会場とした」という点です。皆さん、但馬の理学療法って、実はすごく進んでいるんです。でも、「具体的に何が進んでいるのか？」と聞かれると、意外とご存じない方も多いのではないのでしょうか。その“答え”を、今回のいくつかの企画を通してお伝えするつもりです。会場に来られない方は、甲南女子大学会場でオンライン越しにご覧いただくのもよし、オンデマンドでじっくり学んでいただくのもよし。でも、やっぱり一番おすすめなのは、実際に但馬の地に足を運んでいただくことです。現地ならではの空気と、そこで活躍する理学療法士たちの熱を、ぜひ直接感じてください。会場で皆さまとお会いできるのを、心より楽しみにしています。

準備を進める中で、チームとしての印象的なエピソードがあれば教えてください。

準備委員が初めて一同に会したのは、第35回学術大会の会場でした。その場で私から、最高級の栄養ドリンクを全員にお渡ししました。「いざという時に飲んでください」というメッセージを添えて。ちょっと冗談交わりではありますが、大会長として本気のエールでもありました。というのも、準備委員というのは本当に大変な役割で、時には“24時間戦えますか？”というくらいのギリギリの状況で走り続けていただいています。それが“正しい働き方かどうかという議論は一旦置いておくとして……”
そうして積み上げてきた一つひとつの企画には、言葉では言い表せない熱や思いが詰まっています。だからこそ、今回の学術大会では、そうした準備の軌跡も含めて、皆さんに味わっていただけたらと思っています。

今後の展望と理学療法の未来

本大会が兵庫県の理学療法にどのような影響を与えたいと考えていますか？

今回の学術大会では、オンデマンド配信も行います。
これは、兵庫県内の理学療法士だけでなく、全国の理学療法士に向けて積極的に情報を発信するという意図を込めた取り組みでもあります。
私自身、学術局を担当する理事として日々活動するなかで、兵庫の理学療法が持つ力の大きさを実感しています。
一方で、その力がまだ十分に全国には伝わっていないという歯がゆさも感じています。
だからこそ今回の学術大会では、「兵庫の理学療法の底力、ここにあり」ということを、全国の皆さんにしっかりと印象づけたいと思っています。
兵庫発の理学療法の実践と知見が、他地域の刺激や参考となり、ひいては全国全体の理学療法の質向上につながっていく。そんな広がりをおの大会から生み出せたら、本望です。

今後の兵庫県理学療法学術大会はどんな方向へ進んでいくと思いますか？

「兵庫は日本の縮図」と、よく言われますよね。

北から南まで多様な自然・文化・産業が広がり、その風土は全国の縮図であると。私は、兵庫県内の各地域で理学療法が直面している課題は、そのまま全国の理学療法士が向き合っている課題でもあると考えています。

専門特化型の学会では拾いきれない、地域に根ざした課題——。

それに真正面から向き合うことこそ、都道府県士会主催の学会大会の意義だと思うのです。

そして兵庫県は、その多様性ゆえに、非常に幅広いテーマを扱うことができる土壌を持っています。

今後の兵庫県理学療法学術大会は、「兵庫県士会員ファースト」でありながらも、日本全体の理学療法の課題に対しても方向性を示すような場へと、進化していくと確信しています。

その新たな一步を踏み出す起点が、まさに今回の第36回学会大会です。

最後に、大会参加者へのメッセージをお願いします

ここまで長い記事を読んでくださった皆さまには、もう十分、私の思いは伝わったのではないかと思います。もう、私からのボールはすべて投げ切りました。

あとは、皆さんのアクションを待つだけです。

ぜひ、参加してください。絶対に損はさせません。

一機は熟しています。

但馬で。神戸で。

そしてオンデマンドの画面越しで。

皆さまとお会いできるのを、心より楽しみにしています。

★第36回兵庫県理学療法学術大会の参加申し込みは7月16日から開始予定となっております
また、第38回・第39回の県学会大会長を公募しております。
どちらもたくさんのご応募をお待ちしております！

第38回 (2027年) 開催!
第39回 (2028年) 開催!

県学会大会長公募

「機は熟した」

詳細はこちら

立候補用 QRコード
公募案内 QRコード

兵庫県理学療法士会 学会運営審議会

機は熟した
地域の未来を支える
理学療法の
挑戦と革新

第36回兵庫県理学療法学術大会

2025 10/19(日)

大会長 中谷 知生
宝塚リハビリテーション病院

但馬会場: 但馬長寿の郷
神戸会場: 甲南女子大学

初めの2会場開催!!

副大会長 小森 昌彦 (但馬長寿の郷)
副大会長 堀 寛史 (甲南女子大学)

大会運営事務局: 第36回兵庫県理学療法学術大会 事務局
神戸市立医療センター中央市民病院
〒650-0047 兵庫県神戸市港島南町2-1-1
運営会社: 株式会社プロアクティブ

HP Instagram X(Twitter)